

令和3年度 学校園評価(学校関係者評価)シート

(様式2)

学校名 加古川市立若宮小学校

1 学校教育目標 すこやかで、創造的に生きようとする児童の育成 ー進んで学ぶ子・仲よく助け合う子・最後までやりぬく子・元気がんばる子ー

2 学校基本方針

①主体的に生きる力を育てる教育活動の実践
 ②心豊かな児童の育成
 ③自主性、根気強さ、自立心の育成
 ④自らきたえる、たくましい心身の育成
 ⑤信頼される教師としての資質向上
 ⑥家庭、地域との連携

3 志向する学校運営

①児童にとって ・学校は「未来を生きる礎を学ぶ場」であること
 ②保護者にとって ・学校は「安心・安全な信頼できる場」であること
 ③教職員にとって ・学校は「働きがいがあり協働の気風のある場」であること
 ④地域にとって ・学校は「まちづくりの拠点となる場」であること

評価基準
 A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない E:わからない

※評価項目を評価願います。

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ(学校関係者評価)	達成状況
基礎的、基本的な内容の確実な定着	・朝の学習(15分間)を活用し、学習内容の充実や基礎的、基本的な内容の定着を図った。 ・Chromebookの活用により、ドリル学習を充実させた。	B	・Chromebookを活用し、自宅学習や自ら取り組む学習の充実を図る。	授業参観で、Chromebookを活用した授業を行っているクラスを参観したが、児童が慣れた様子で、楽しそうに取り組む姿が見られた。今後ますます基礎学力の定着が図られるような取り組みを期待する。	B
自ら学ぶ意欲を育てる学習指導の充実	・個人の進捗や関心にあわせた自主課題を準備し指導を行ったり、授業の導入を工夫するなどして学習への意欲向上を図ったりした。	A	・個人自ら学ぶ方法、仲間と共に学ぶ方法等、学びに向かうことについて丁寧に伝え、実践させる。	児童がのびのびと学習する姿を参観し、児童が前向きに授業に取り組むことができるよう、教師が工夫を凝らした授業づくりを行っていることが分かった。	A
心を育てる人権教育の推進	・わかみや人権週間などの取組も活用し、お互いを認め合う温かい集団づくりに努めた。	A	・発達段階や現状を分析し、その結果に応じた教材選びを工夫する。また多様性を認め合う社会の実現に向けた学習や実践を行う。	分からないことがあれば、子どもたち同士で教え合ったりする雰囲気があり、意欲的に課題解決を図ろうとする児童が育ってきている。	A
自主的実践的な態度を育てる特別活動の推進	・委員会の常時活動の充実に努めた。また、児童会が主体となって、わかみやっ子のネットルールづくりや3.11追悼行儀を行うなど自主的な活動を推進した。	B	・活動の目的や意義を児童に明確に伝え、児童自らがその重要性に気づき発信していくことができるような体制を整える。	児童が自分たちで考え、作成した掲示物が校内のあちこちに掲示されており、児童から児童へ、守るべきことや徹底させたいことを発信していた。	A
基本的生活習慣の確立	・各教科の授業だけでなく、毎朝の健康調べ、給食指導や清掃指導などを通して、粘り強く指導を行った。	A	・教師が模範となり指導することに加え、子どもたち同士で呼びかけ意識を高めあえるようにする。	・児童たちの表情が明るく、元気な声を聞かせてもらったことが、基本的生活習慣が身につけていることだと感じた。教職員の働きかけが児童の学校生活を支えていると感じた。	A
健康教育の推進	・コロナ対策としての、手洗い、うがい、マスク着用等の取組を徹底させるとともに、食育、運動、睡眠等の大切さについて折に触れて指導した。外部機関と連携した取組を行うことができた。	A	・学校で指導している内容が家庭でも浸透するよう、家庭への理解を図り、協力が得られる様な啓発活動を充実させる。	・低学年でも分かりやすく手洗いの方法が掲示してあったり、コロナ対策の掲示物があちこちに貼られていたり、児童の意識を高めようとする環境が整えられていた。	A
情報教育の推進	・Chromebookや電子黒板等を利活用した新しいスタイルの授業づくりに励むとともに、児童の情報スキルや情報リテラシーの向上に務めた。	A	・児童の情報スキルのさらなる向上や教職員の指導力の向上に努める。 ・「インターネットトラブル防止講座」を年度当初に計画し、児童への意識づけを行う。	・電子黒板やChromebookの活用がなされているとの報告を受けた。今後ますます情報スキルが上がっていくよう期待したい。	A
学校教育への参加・啓発	・行事やPTA活動の縮小が続いたが、常に新しい学校情報を発信することで、児童の様子や学校からのお知らせを伝え続けた。できる限り、保護者や地域の方々に学校にきていただけるように工夫した。 ・シニアクラブと連携して、1年生が昔あそび、5年生がしめ縄づくり体験を行った。	B	・コロナ感染症対策を万全にしながら、保護者や地域の方々の来校の機会を確保する。	・コロナ禍であっても、対策を万全にしてシニアクラブとの体験活動を行ったり、保護者が来校できなくても、児童の頑張る姿を写真や動画で配信するなど、開かれた学校づくりを行おうとしていた。	A